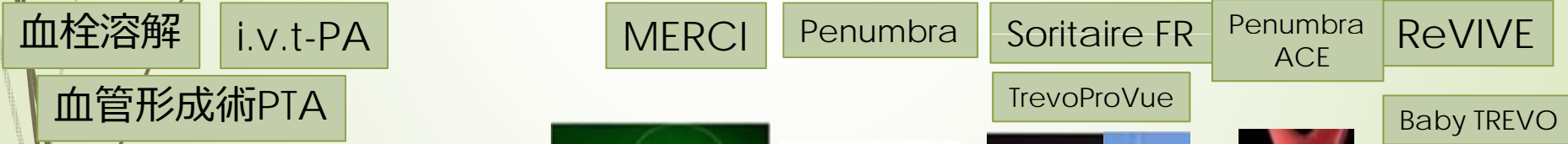
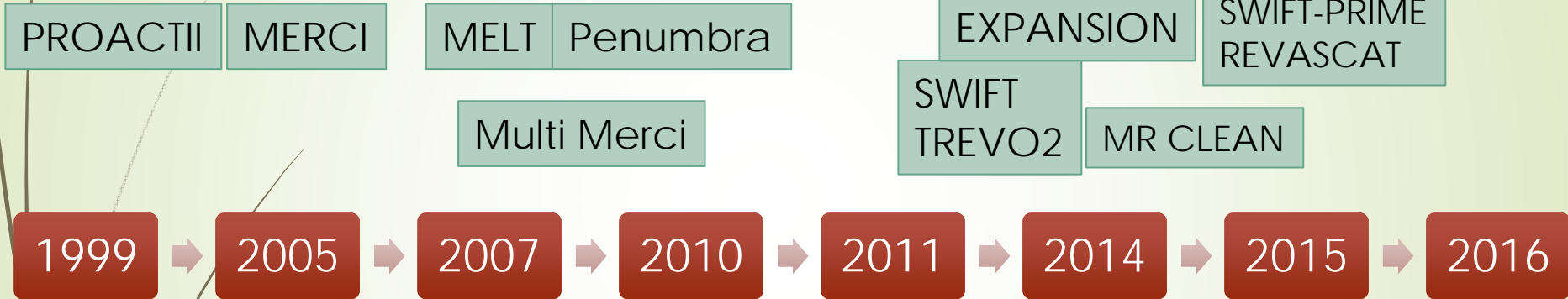


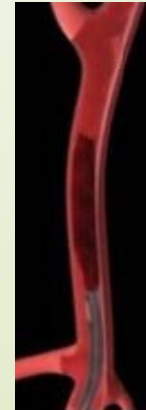
図 1

日本国内の再開通治療の歴史

発表された研究



治療方法



米国心臓協会／米国脳卒中協会の
ガイドラインにおける
「血管内治療が推奨される条件」

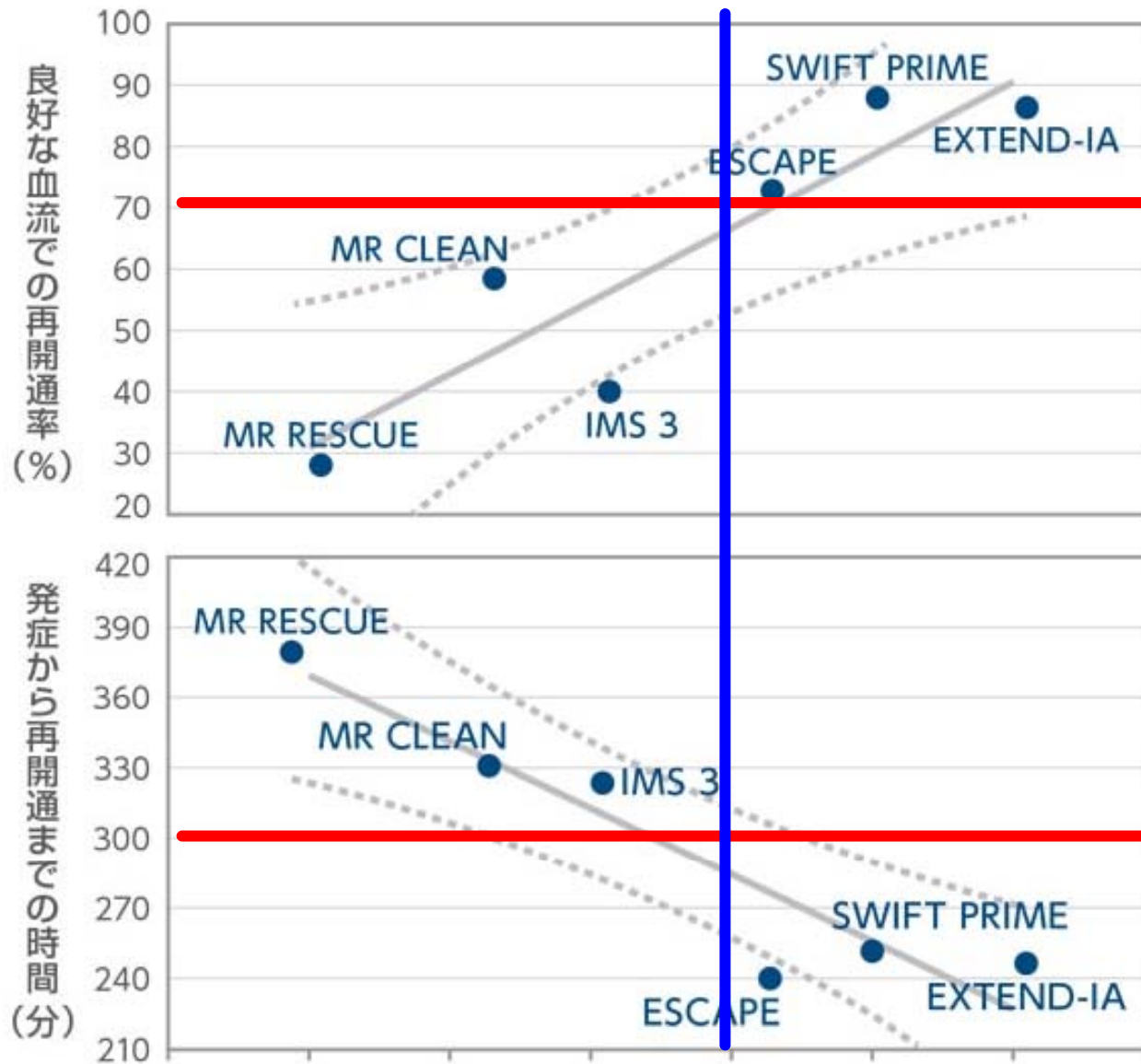
(*Stroke*. 2015;46.)

血管内治療をすべき患者 (Class I; エビデンスレベルA)

- 発症前のADLがほぼ自立している
- t-PA療法を4.5時間以内に受けた
- 内頸動脈・近位中大脳動脈閉塞
- 18歳以上
- NIHSSが6点以上 (中等症以上の症状)
- ASPECT6点以下 (まだ脳梗塞が広範囲でない)
- 血管内治療が発症 6 時間以内に可能

図3

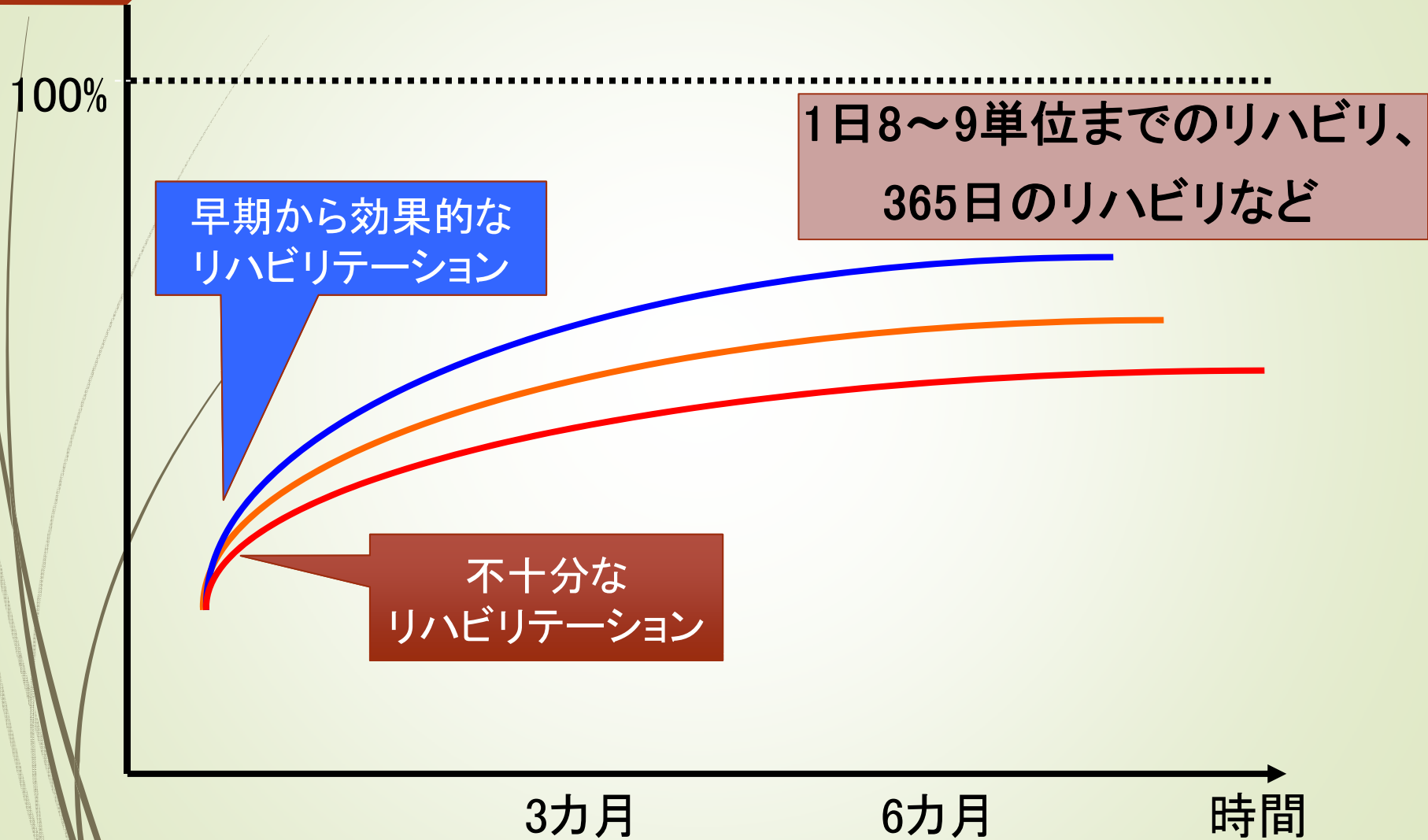
自立した生活を得るためには？



良好な再開通を70%以上，発症-再開通は300分以内

図4

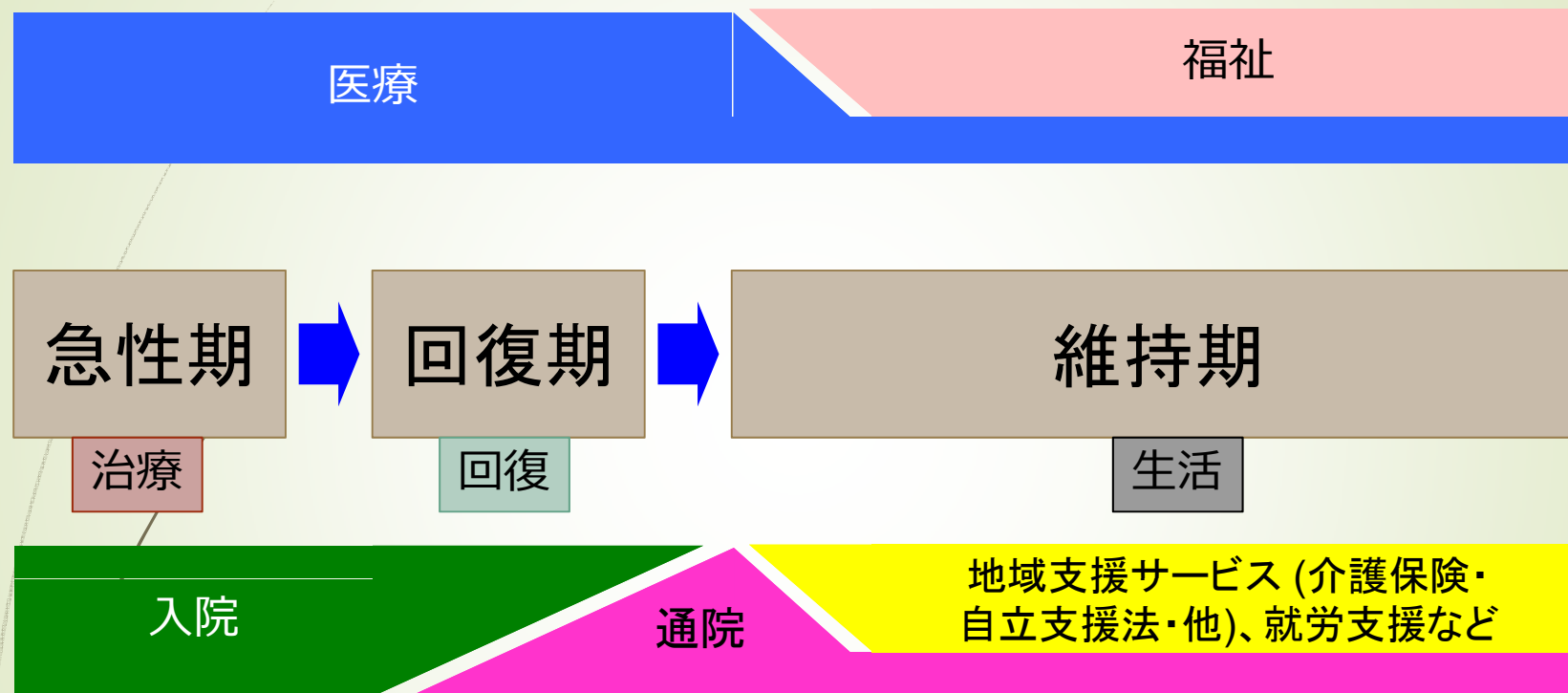
麻痺の回復：リハビリテーションによる違い



一般的に3カ月で8~9割の回復が終了し、6カ月にはプラトーに達する

図5

治療とリハビリテーションの流れ



手術や薬物治療・急性期リハ

廃用症候群の予防
早期座位・起立

回復期リハ

機能回復、ADL向上に向けた「集中的」訓練
介護への移行準備

維持期リハ・福祉

生活機能の維持・向上
障害のケアや認定